令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立熊野高等学校 校長名： 内川 さやか

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

個を認め合い多様性を尊重する中で、個々の進路に応じた知識や技能を身につけさせると共に、情報活用能力、課題解決力、コミュニケーション力などの、社会生活を営む上で必要な力の育成をめざす。

学校評価の公表方法

インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）						
番号	計画・取組			評価（1月16日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況
1	授業の充実と、確かな学力の育成を図る。	C	わかりやすい授業を目指し教材研究に努めるとともに、生徒が主体的に取り組める授業展開を工夫するなど、授業力向上を図る。	学習指導要領の趣旨に則り、指導と評価の一体化を進め、常に授業改善に努められたか。	B	3観点による評価方法にも十分に慣れてきたが、主体的に学習に取り組む態度の育成には、まだ改善の余地がある。
			総合学科においては、特に選択科目において進路希望に応じた学力の定着を図る。	生徒の進路目標に則した学力向上を目指す取組ができたか。	B	担任による進路希望に応じた科目選択指導は充実しており、教科担任による進路に即した学習指導も行うことができた。
			看護科においては、基礎学力の定着を図るとともに、専門性を高めるための丁寧な指導と補習等を実施する。	基礎学力向上を目指した丁寧な指導ができたか。	B	学力把握を行い、基礎学力向上に取り組んだ。実習での技能や専門知識の獲得に向け、カリキュラム上で柔軟な対応や補習を実施した。
2	キャリア教育をさらに推進し、生徒の希望進路の実現を図る。	B	進学・就職に対応できる学力の習得とともに、自身の進路について様々な情報をICTの活用により収集・整理し、具体的な方向付けができる力を身につける。	進路実現に向けての段階的・系統的な取り組みが効果的になされているか。客観的な学力分析や多岐にわたる進路希望への組織的な対応ができてきているか。	B	求人票や受験報告書などをデータベース化し、膨大な量のデータ生徒の端末で閲覧できるようにデジタル化を推進している。総合型選抜や学校推薦型選抜を利用して進学する生徒が多く、模擬試験の受験者が少ないことが課題である。
			キャリア教育を通じて勤労観・職業感を高める。	生徒自身が自ら考え行動し決定できるキャリア教育がなされているか。低学年より校外のガイダンス・補習を効果的に実施し、進路未定者を減少させる取り組みが系統的に進められているか。	A	1学年から各種ガイダンスを段階的に実施し、3学年では面接、プレゼン、出願指導など、より実践的な取り組みを行った。進路未定者に対しては、個人の希望を第一に考え、担任団やハローワークなどと連携して取り組みを進めている。
			看護科においては、実習や卒業生との交流等を通して看護師として必要な素養および意識を高める。	看護科5年間を見通した学年進行による指導が行われているか。継続的・多面的な進路指導の実施により、希望進路への決定率向上が図れているか。	A	看護師国家試験に合格するための知識だけでなく、将来医療現場で活躍できる看護師へと成長するために、授業や実習指導を通じて医療従事者としての自覚を醸成した。
3	地域連携の活動を通してその意義を理解し、生徒の主体的な活動の向上を図る。併せて防災意識の向上を図る。	B	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。	地域活動への参加回数が年間二回以上行っているか。	B	用水路清掃及び3年生による地域清掃を実施した。
			マンスリータイムズやアセンブリー等の機会を利用し、地域活動の成果を共有する。	活動内容をホームページに掲載し、適宜広報できているか。	B	マンスリータイムズをホームページに掲載した。ホームページを刷新した。
			避難訓練や防災学習を通して、災害時に必要な知識や技能を習得させる。	緊急時の避難行動や救命措置を適切にとることができるか。	B	自らの安全を確保できる判断力を養うために、避難訓練を実施した。地域住民の避難場所として避難所を運営し、災害時には支援者となるべく、消防本部や自衛隊との連携による大規模な体験訓練を計画する。
4	SC・SSWや関係機関と連携し、組織的な対応を図る。挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	B	頭髪服装指導を全職員で行う。新入生宿泊研修・在校生校内研修を通してマナーや連帯感を高める。	学年アセンブリーでの点検指導が定期的に行われているか。日常の学校生活で挨拶・マナー指導が継続的に行われているか。	B	学年アセンブリーで生活指導担当の講話や点検指導を定期的に行った。新入生宿泊研修については、充実した研修内容を実施できた。
			駐輪指導、登校時自転車通学指導等の交通安全指導を充実させる。遅刻・無断欠課防止週間を設定し、事後指導を行う。	校内巡視及び校門指導等を継続して行っているか。全校生徒に対する二輪運転に関する交通安全指導が年一回以上行われているか。遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行っているか。	B	登校時の交通指導については、日々の校門・駐輪指導に加え、PTAと連携し保護者の送迎についても、学校周辺道路の交通安全に協力依頼した。
			SC・SSW等との情報共有を行い組織的な対応を行う。	専門家や外部機関と連携した取組がなされているか。	B	SC・SSWの業校日に、ケース会議を開催し、専門家による見立てや事後指導など組織的に対応した。

学校関係者評価（1月24日実施）

- ICTを活用することにより、保護者の学校評価アンケートの回答数が増加している。ただし、回答しづらい質問もあるため、質問項目の再検討が必要である。
- 全体的に評価は向上している。
- 安定した評価を得ているのは、先生方の努力の賜物です。
- 生徒に対して、学力向上の意識をもっと持たせることが重要である。
- 基礎学力を高めることが大切である。
- 熊野高校では、外部から講師を招聘して授業を行っている。これを積極的に活用し、継続的な取り組みにしてほしい。
- 進学する生徒のうち、総合型選抜や学校推薦型選抜による入試方式を利用する生徒が増加している。近年の入試傾向に沿っているが、早く進路を決定したいという安易な選択に陥らないよう、今後指導が必要である。
- クラブ活動が地元新聞でも取り上げられることが多く、熊野高校には発信力がある。
- 各中学校を訪問し、本校の特色を説明して生徒確保に努める。その上で看護科の定員を充足させてほしい。
- 県全体で高校の受験倍率が下がり、定員を充足しない学校が増えている。多様な生徒が入学することを想定し、サポート体制の充実が必要である。
- この地域の人口減少は深刻な問題であり、熊野高校単独で受験生徒数の増加を考えるのではなく、近隣の高校全体でこの地域の将来を考えていかなければならない時代に来ている。